

2023年2月期 通期決算

決算説明会資料



2023年4月17日

株式会社 アークス 代表取締役社長 横山 清

2023年2月期 通期決算について

1. 2023年2月期実績について
2. 営業利益の増減要因について
3. 2024年2月期業績予想について
4. サステナビリティの推進について
5. 株主還元について

株式会社アークス
取締役副社長執行役員 古川 公一

1. 2023年2月期実績について

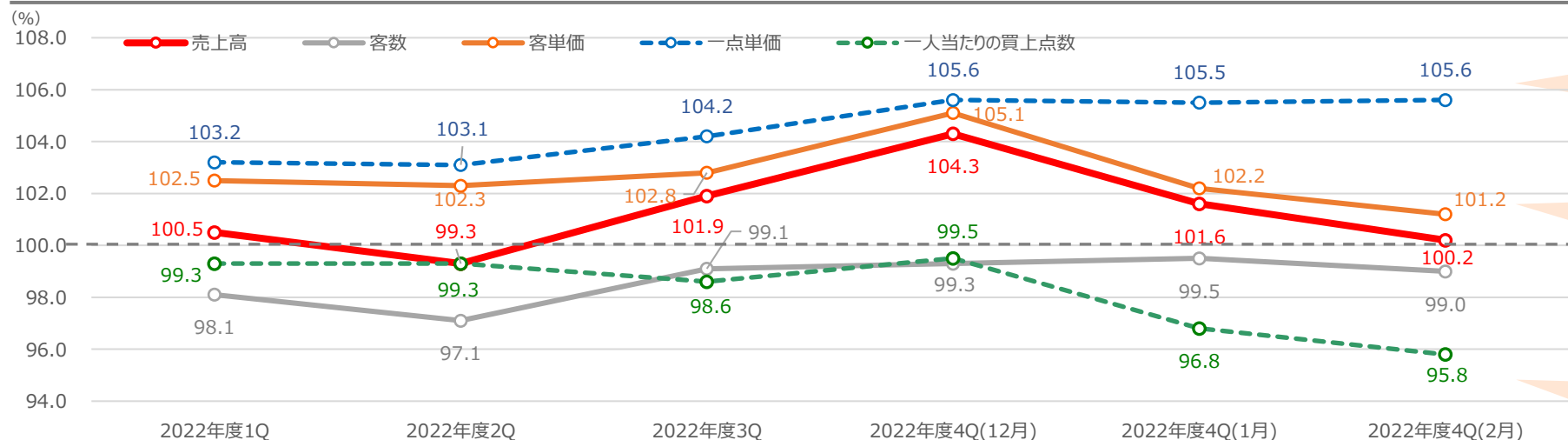
2023年2月期 (億円)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期実績
売上高	1,382	1,429	1,375	1,474	5,662
前年比	100.5%	99.9%	103.1%	103.4%	101.7%
売上総利益	344	350	345	377	1,418
前年比	100.7%	101.0%	104.8%	105.8%	103.1%
販管費	306	315	316	331	1,269
前年比	102.5%	103.3%	105.3%	106.5%	104.4%
営業利益	38	35	28	45	148
前年比	88.5%	84.7%	100.0%	100.9%	93.1%
経常利益	42	40	32	49	164
前年比	90.4%	87.9%	102.8%	101.1%	95.0%
当期純利益	28	26	22	21	99
前年比	99.6%	85.2%	108.6%	97.1%	96.5%

※ 本表記載の前年比は、2022年2月期の公表実績に対して新会計基準適用後の数値と比較しております。

2023年2月期通期実績

- 売上高は前年比101.7%増の5,662億円となり、新会計基準適用後で**過去最高の売上高**を更新しております。
- 一方、電気料金高騰に伴う水道光熱費の増加を主因として販管費が大幅に増加。3Q以降は売上高・総利益の好調が販管費の増加をカバーし、経常利益も昨年を上回って推移したものの、1Q・2Qの減益が響き、経常利益は減益で着地いたしました。但し、**2020年度・2021年度に続く水準の利益**を確保しております。
- 調光機能付きLED照明への切り替え等、第4四半期において約4億5千万円の予算外の前倒し修繕を実施しております。

2023年2月期 既存店売上高・構造分析 (前年比)



• 物価高に伴い、一点単価が上昇。特に4Q以降は105%を超える水準で推移。

• 客単価は年度当初から年末にかけては好調に推移したものの、年明けからの買上点数の大きな減少を受けて減少傾向にある。

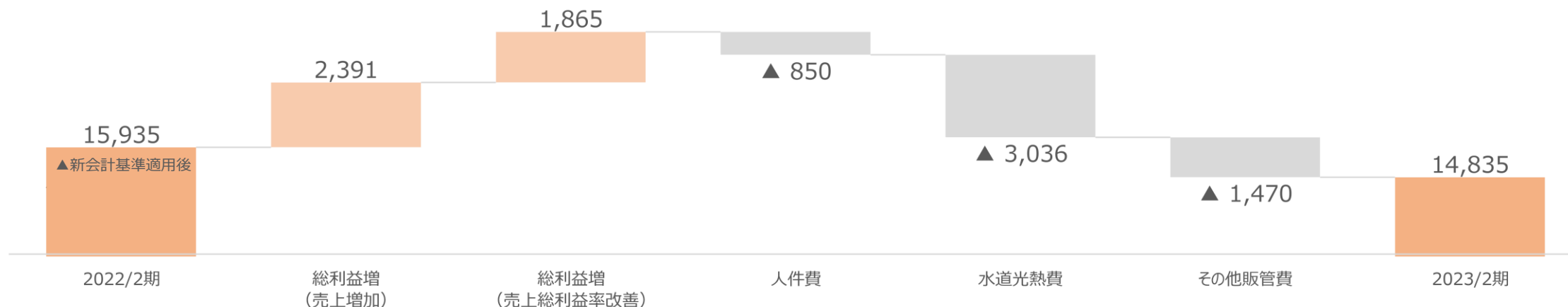
• 物価高に伴い、一人当たり買上点数が減少。特に4Qで顕著な減少となった。

2. 営業利益の増減要因について

売上増及び総利益率改善により総利益は42.6億円増の1,418億円を確保しましたが、電気料金高騰に伴う水道光熱費の大幅増加等により、営業利益は減益着地となりました。

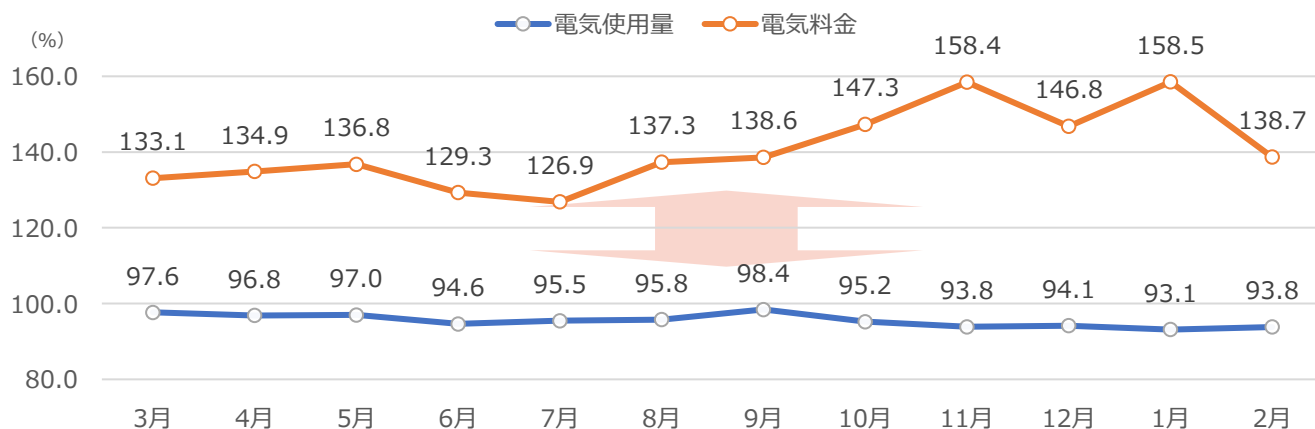
営業利益の増減要因（前年対比）

(百万円)



電力使用量と電気料金の前年対比

節電対策により電力使用量は昨年対比で削減を進めたが、単価上昇により電気料金前年比は大きく増加している。



当社の節電対策

- ・エネルギー監視システムの活用、照明・冷設機器等の運用ルールを見直し（設定温度の見直し等）
- ・省エネ性能の高い調光機能付きLED照明への切り替えや冷凍ケースのリーチイン化
- ・開店前の間引き照明、外灯・作業場等の照明をタイマー式からセンサー式に入れ替え
- ・節電チェック表による点検の実施
- ・冷暖房機器の清掃実施
- ・飲料の常温販売の拡大
- ・新日本スーパーマーケット同盟での節電事例の共有・研究

3. 2024年2月期業績予想について

(億円)	2023年2月期	2024年2月期
	通期実績	業績予想
売上高	5,662	5,820
前年比	101.7%	102.8%
売上総利益	1,418	1,477
前年比	103.1%	104.2%
販管費	1,269	1,329
前年比	104.4%	104.7%
営業利益	148	148
前年比	93.1%	99.8%
経常利益	164	162
前年比	95.0%	98.5%
当期純利益	99	99
前年比	96.5%	100.0%

2024年2月期の取り組みについて

売上高

(+158億円)

- CGC商品の更なる拡販
(株オータコのCGC商品導入)
- 新基幹システムの利活用
(グループ内数値比較・ID-POS活用 等)
- スーパーアークス業態への展開促進
(お客様ニーズへの対応)

売上総利益

(+59億円)

- 売上増加 (前年比+102.8%)
⇒総利益+40億円
- 総利益率の改善 (25.0%⇒25.4%)
⇒総利益+19億円

販管費

(+60億円)

- 電気料金126億円 (前年差+25億円)
- 人件費752億円 (前年差+24億円)
- アークス委員会活動や新日本スーパーマーケット同盟の取り組みにより、生産性向上・コスト削減・節電等を進める

● **営業利益 148億円** (前年比99.8%、前年差▲0.3億円)

● **経常利益 162億円** (前年比98.5%、前年差▲2億円)

● **当期純利益 99億円** (前年比100.0%、前年差+0.03億円)

4. サステナビリティの推進について

2022年6月にサステナビリティ推進室を立ち上げ、従来のサステナビリティ推進委員会とともに、グループ全社で推進活動に取り組んでおります。

共同物流の実施によるCO2削減の取り組み

(株)ラルズと(株)東光ストアの共同配送センターを2021年に立ち上げ、立ち上げ以降、トラック積載率の改善や配車オペレーションの効率化等の取り組みによりCO2排出量をセンター立ち上げ前の2020年比で約15%の削減（▲1,997kg/日）を実現しています。

▼ 大曲物流センター：写真左から、
車両への納品台車積込、バラ商品 折り畳みコンテナ自動積付機、ケース商品 店別カテゴリ仕分設備



(株)ユニバースにおける「食品リサイクル・ループ」の取り組み

(株)ユニバースでは2008年から店舗で排出した野菜や惣菜等の食品残渣を利用した肥料を使用して生産した野菜の販売を実施しております。2023年2月期は商品の取り扱いを拡充し、従来の「エコごぼう」に加えて「エコにんじん」「エコながいも」をラインナップに追加いたしました。



TCFD（※）提言に基づいた開示にかかる取り組み

気候変動問題をグループ横断で取り組むべき重要課題と捉え、タスクチームを結成のうえ検討を行い、2023年4月3日にTCFD提言への賛同及び同提言に基づく開示を実施いたしました。

削減目標

短期目標
2024年度までに、サプライチェーン排出量(スコープ3)の可視化を目指します。
長期目標
2030年度に、売上高1億円当たりスコープ1・2のCO2排出量を、基準年度(2013年度)の排出量に対し50%削減します。
2050年度に、カーボンニュートラルの実現を目指します。

(株)アークスが女性活躍推進の優良企業として「えるぼし」の3つ星取得

(株)アークスが「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく認定マーク「えるぼし」を取得。認定項目5項目である「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」においてすべての基準を満たし、**最高位の3つ星**を取得いたしました。

女性活躍推進の取り組み

2015年4月 女性リーダー養成研修を実施（現在は男女混合研修に移行）
2019年8月 ダイバーシティ推進プロジェクトを設置
2020年6月 アークスグループにて「えるぼし」取得を経営目標に盛り込むことを全社合意
2021年1月 社内向けに「ダイバーシティニュース rashiku (らしく) vol.1」を発行
2022年3月 北大とのコラボにより多様な従業員の相互理解を促進する冊子「WORK×LIVE」を刊行



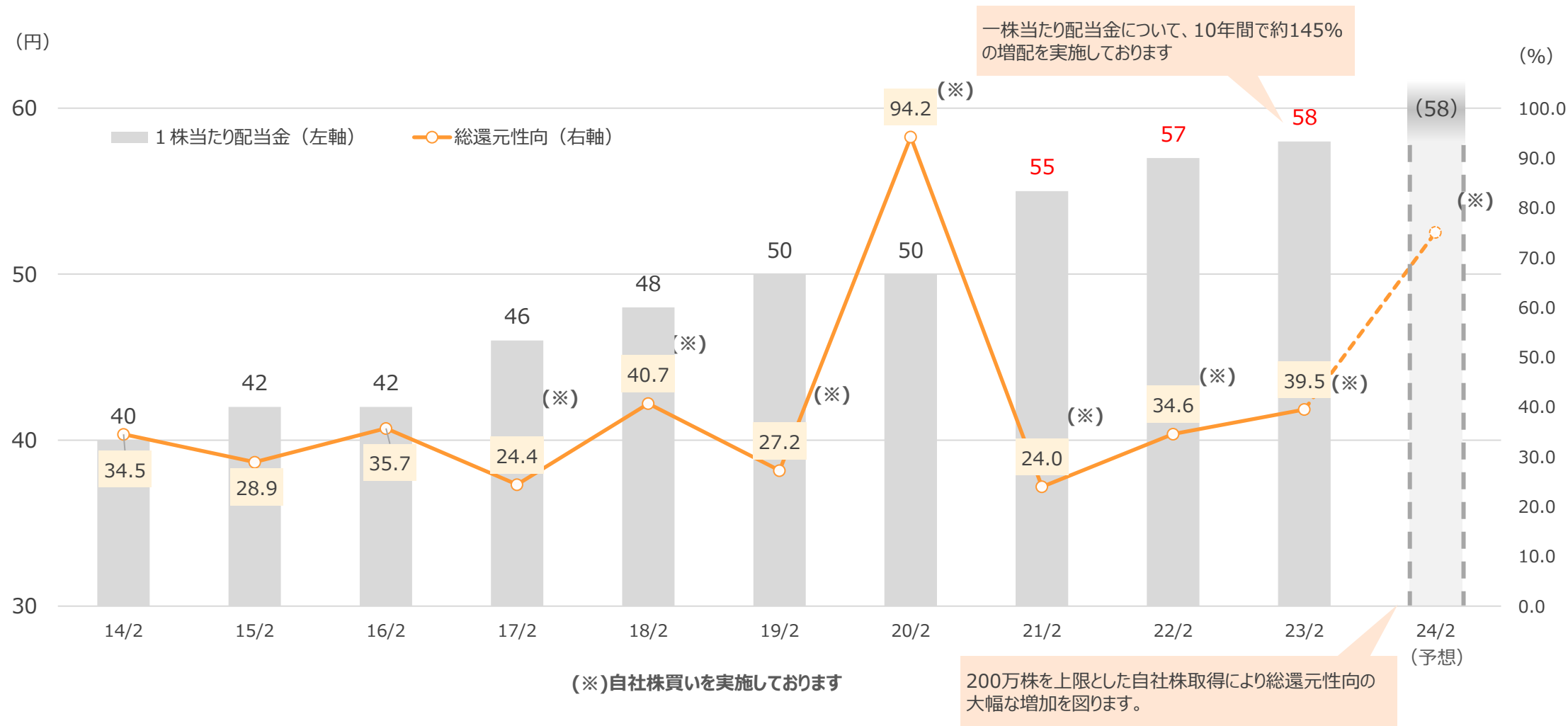
(※)「TCFD」：G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）により、気候関連の情報開示及び金融機関の対応をどのように行うかを検討するため設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」を指します。企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について開示することを推奨しています。

5. 株主還元について

- 2023年2月期は1株当たり**1円の増配**を実施予定。継続的な増配を実現しております。
- 加えて**200万株を上限とした（上限50億円）自社株買い**を実施いたします。

配当金・総還元性向(※)の推移

(※)総還元性向 = (支払配当総額 + 自社株取得) ÷ 当期純利益 × 100



アークスグループの取り組み

1. 新価格体系への移行
2. 新たな価値の提供
3. アークスの今後～

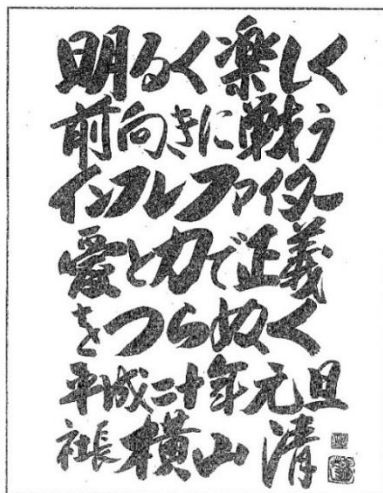
【ご参考】アークスグループの店舗展開について

株式会社アークス
代表取締役社長 横山 清

1. 新価格体系への移行

行動変容から価値変容へ。

アークスグループは、お客様の価値変容に対応し、「新価格体系」への移行で、インフレにチャレンジしていく。



▲平成20（2008）年
年頭所感

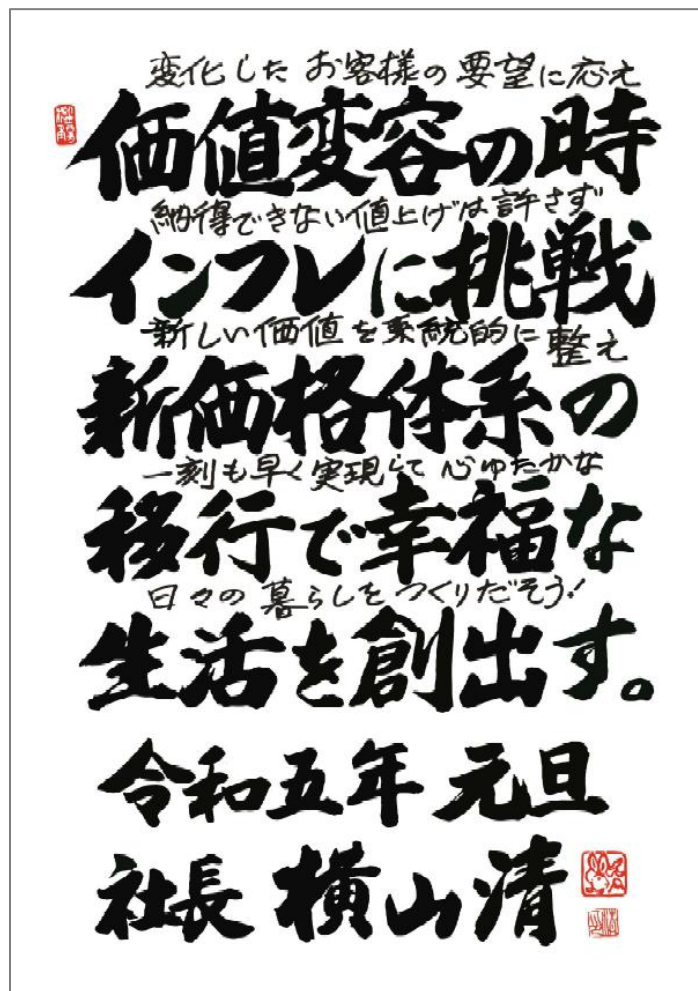


▲2008年「食卓応援価」

コロナ禍で積み重なった
行動変容

地政学リスクが拍車をかけた
資源価格高騰

さまざまなモノやサービスの
価格高騰



▲令和5（2023）年 年頭所感

変化したお客様の要望に応え
納得できない値上げは許さず
新しい価値を系統的に整え
一刻も早く実現して心ゆたかな
日々の暮らしをつくりだそう！



2. 新たな価値の提供

お客様の価値変容を受け、
アークスグループとして新たな価値の提供が求められている。

企業理念

地域のライフラインとして
価値ある商品・サービスを
低価格で提供し、
豊かな暮らしに貢献します

グループ運営方針

1. お客様第一主義の徹底
2. 「八ヶ岳連峰経営」による運営
3. 健全な経営と着実な成長
4. ロープライス、ローコストの追求
5. 情報の公開とコンプライアンス

価値の変容

コロナ禍や地政学リスクの増大、物価
高騰を受け、価値変容が起きている。
お客様の消費志向も変化

- **価格・品質** に加えて、

今後は、価格・品質は前提として、以
下の観点が今以上に重要視される
働き方や暮らし方、生活習慣が変化

- **健康・安全・安心**
- **簡便性・利便性**
- **サステナビリティ 等**

新たな価値の提供

新しい価値観のなかで、我々は新たな価
値をお客様に提供していく必要がある

- **お客様に納得していただける「新
しい価格体系」への移行**
- **お客様のニーズに対応した商品・
サービスの提供**
- **「アークスでなければ買えない」商
品の提供 等**



▲仕入先生産者



▲(株)伊藤子エーン 水産大国

Always Rising Community Service
(常に) (上昇する) (地域社会に) (奉仕する)

3. アークスグループの今後～

アークスグループが持つ様々な経営資源から、ステークホルダーの皆様へ新たな価値を提供し続ける。



▲スーパーアークスへの業態変更 (スーパーアークス金ケ崎店)



◀冷凍リーチインケース導入



▶同盟限定オリジナル商品



【ご参考】アークスグループの店舗展開について

2023年2月期は新規2店舗に加えて、改装22店舗（うち業態変更8店舗）を実施。
道内に限らず、東北においてもスーパーアークスへの業態変更を進めております。

2023年2月期 店舗展開情報

概要	店舗名称	所在地	実施時期	運営会社
新規出店 (2店舗)	スーパーアークス千代台店	北海道函館市	2022年9月	(株)道南ラルズ
	ユニバース北上花園町店	岩手県北上市	2022年9月	(株)ユニバース
改装 (22店舗)	通常改装： 計14店舗 (株)ラルズ 6店舗、(株)ユニバース 1店舗、(株)福原 2店舗、 (株)ベルジョイス 1店舗、(株)道北アークス 1店舗、 (株)東光ストア 3店舗			
うち 業態変更 (8店舗)	スーパーアークス北上市	岩手県北上市	2022年7月	(株)ベルジョイス
	スーパーアークス永山中央	北海道旭川市	2022年7月	(株)道北アークス
	スーパーアークス平岸店	札幌市	2022年9月	(株)ラルズ
	スーパーアークス六合	北海道旭川市	2022年9月	(株)道北アークス
	スーパーアークス神居東	北海道旭川市	2022年10月	(株)道北アークス
	スーパーアークス末広東	北海道旭川市	2022年11月	(株)道北アークス
	スーパーアークス美園店	札幌市	2023年2月	(株)ラルズ
	スーパーアークス金ヶ崎店	岩手県胆沢郡	2023年2月	(株)ベルジョイス

今後の店舗展開「地域密着の取り組み」

Da・マルシェ歌志内店（道北アークス） 2023年4月15日オープン



- 売場面積 495㎡（141坪）
- 歌志内市が公設民営方式で運営する商業施設への入居となり、歌志内市で約14年ぶりとなる食品スーパーとなります。
- 全国の「市」で最も人口が少なく（2,739人）、半数以上が高齢者の歌志内市において、地域の皆様のお買い物の利便性を向上するとともに地域の雇用を生み出し、移住や定住を促すことで地域を活性化したいとの思いから、同店をオープンすることとなりました。
- その他、(株)ユニバースが2店舗、(株)道北アークスが1店舗の新規出店を予定しております。

- 「スーパーアークス」業態への変換を加速しております。
- 道内に限らず、東北の(株)ベルジョイスでも「スーパーアークス」への業態変更を含めた改装を実施しております。

▼2022年7月改装
スーパーアークス北上市



▼2023年2月改装
スーパーアークス金ヶ崎店



ご清聴ありがとうございました

